

事業2 5, 6年次_研究・臨床実習期間中の海外渡航支援

番号	氏名	渡航先	国・地域	渡航先での受入期間
1	H・N	国立台湾大学	台湾	2023/5/8～2023/6/2

令和5年度岸本国際交流奨学金による海外活動実施報告書

医学部医学科	6年	学籍番号 : *****	氏名 : H・N
渡航先国 : 台湾			
受入機関名 : 国立台湾大学			
渡航先機関での受入期間 :			
令和 5 年 5 月 8 日	～	令和 5 年 6 月 2 日	(26 日間)

スケジュール

国立台湾大学附属こども病院での4週間の実習では小児科と産婦人科を回った。小児科ではNICUと一般小児病棟を1週間ずつ、産婦人科では産科と婦人科を1週間、生殖医療センターを1週間回った。小児科では全体カンファレンスのある月、水、金曜日は8時、その他の曜日は9時に病院に向かい、15時に帰宅した。産婦人科では手術時間によるが、基本的に8時に病院に向かい、16時に帰宅した。

目的

日本国外での医療を体験することのほかに、文化や人口構造など日本と似ているところの多い台湾での実習を通して日本と台湾の医療現場の違いを実際に目にすること、それにより日本では当然だと考えていた価値観を相対化すること、外国人患者への対応力を向上させることを目的とし、台湾での実習を希望した。

内容

病院について

国立台湾大学附属こども病院は小児科と産婦人科を要する病院で、その病床数は460床（うち173床が集中治療やその他の特殊な治療用）である。なお、当病院から徒歩5分ほどの所には国立台湾大学附属病院（こちらは1819床）がある。どちらも非常に規模の大きな病院であった。

小児科 (NICU、一般小児)

回診・カンファレンスへの参加、処置の見学、カルテの情報に基づいた治療方針の検討を行った。

NICU は 25 床あり、その多くが低出生体重児であり（1000g 未満で生まれた超低出生体重児も多く、さらには 500g 未満で生まれた新生児も 3 人いた）、それらの新生児に対する呼吸管理や栄養管理について主に学んだ。

一般小児病棟は呼吸器疾患や消化器疾患など非常に多岐にわたる小児患者を扱っており、その部署（1 つの階の半分）で約 40 人の患者がいた。患者と医師のやりとりは中国語でなされるため回診中に直接患者の情報を得ることはできなかったが、先生方による説明やカルテの情報から患者の病態や治療方針への理解を深めた。

産婦人科（産科・婦人科、生殖医療センター）

産科・婦人科では 1 日におよそ 2 件の手術見学を行った。手術中や手術前後に先生方から患者についての説明を受けたり、カルテを見ることで患者の状態や手術内容について学んだ。

生殖医療センターでは毎日のカンファレンスへの参加及び処置（採卵、胚移植）の見学を行った。また、患者ごとの卵巢刺激のプロトコルをどのように選択していくかについて学んだ。

成果、今後の抱負

国立台湾大学附属こども病院の雰囲気は国内の病院と似ており、また、もちろんガイドラインや公的医療保険の差による違いはあったが、医療の内容も日本のものと大差はなかった。一方、本実習で日本との差を最も感じたのは医師の英語力であった。患者と医療スタッフ間、医療スタッフ同士の会話は全て中国語で行われていたが、留学生に対して患者の状態や今行なっている医療行為について英語で流暢に説明してくださった。また、カルテは基本的に全て英語で記載されており、カンファレンスのスライドも英語で作成されていることが多かった。国際的な競争力という観点において台湾の医師たちや医学英語教育を見習う必要性を感じた。

本実習にて日本と同水準の高い医療技術、そしてより国際的な視野を持った医療現場、教育現場を自分の目で実際に見ることができ、非常にいい刺激となった。今後も医学生として基本的な医学知識の習得を目指すとともにグローバルな視点を忘れることなく勉学に励みたいと思う。

謝辞

本実習の実現に向けて様々な準備をしてくださった、大阪大学医学部教育センター、教務係の方々、現地にてご支援、ご指導してくださった、国立台湾大学、国立台湾大学附属こども病院の方々、そして奨学金を支給してくださった岸本先生に感謝申し上げます。